

課題名：細胞農業技術をめぐる社会的価値観・政策・倫理のダイナミズムの検討

代表者：日比野 愛子（弘前大学 人文社会科学部 准教授）

参画機関：弘前大学, 京都大学, 東京工業大学 など



課題概要

本企画調査では、「細胞農業技術をめぐる社会的価値観・政策・倫理のダイナミズム」研究プロジェクトの開始に向け、当技術のELSIにかかわる重要概念の抽出を進めている。培養肉生産を中心とする細胞農業技術は、従来のフードシステムに大きな変革をもたらす。萌芽的技術と既存のシステムとのスムーズな接合をはかるには、生活者（自然観、人々の総合的な価値意識、等）や産業（生産・流通にかかわる制度等）の特性を理解した上で、技術と社会が互いに調和するようなシステムを提起することが重要である。企画調査では、社会心理学、科学社会学、倫理学、政治学を中心に、今後の展開にカギとなる概念の洗い出しを進めている。これとともに「食の倫理」や「細胞農業技術・フードテックの技術動向」に関する研究会を実施し、適切な方法論を整理しつつある。

ポイント

- 1) 細胞農業技術と生活者・生産者の世界
単純な「消費者の受容」にとどまらず、細胞農業技術を受け止める社会・文化・制度の特性と影響を学際的チームで調査しています。
- 2) 開発現場との協働
細胞農業技術の研究開発グループと協働し、肉とは何か、良いコミュニケーションとは何かの意見交換を重ねています。提言を研究開発に反映させることを狙いとしています。
- 3) 倫理の多層性
細胞農業技術は、環境問題といった別の倫理課題に貢献することも期待されています。複雑な倫理的課題の重なりをこのテーマに見出すことができます。

